

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2875200921		
法人名	SOMPOケア株式会社		
事業所名	そんぼの家GH神戸伊川谷		
所在地	兵庫県神戸市西区伊川谷町有瀬838-23		
自己評価作成日	令和8年3月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/28/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224
訪問調査日	令和8年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々の状況に合わせた援助に力を入れています。例えば、同じ時間、タイミングで排泄介助を行ったりするのではなくご本人様のタイミングに合わせたり、排泄パターンなどの分析しそれぞれの状態に合わせた援助を行うように個々の生活スタイルや希望を聞き取り、少しでもその方らしい生活を送って頂けるよう1日のスケジュールを作成しています。障害を持たれ、ご自身の思うように生活を送ることが難しくなってしまう方に、少しでも障害を持つ前の生活に近づきその人らしい人生を送って頂く為に必要な事であると考えます。そのために、スタッフへは定期的な研修を通して基本的な考え方や、介護に係る知識・技術を修得できるように取り組みを継続して実施しています。また、地域との関わり強化を図っており、こども食堂、オレンジカフェの定期開催を行い、多世代交流や在宅介護の中で認知症での困りごと解決や認知拡大に取り組んでいます。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

子ども食堂・オレンジカフェ・就労支援事業所によるカフェの開催、ボランティアの来訪等、利用者が地域交流できる機会を設けている。トライやるウィークの受け入れ・地域の体力測定サポート・養成講座の講師活動・地域ケア会議への参加等、地域貢献にも取り組んでいる。月2回のフロアカンファレンス・各種委員会活動等により、職員が提案しながら主体的に利用者支援や運営に取り組む体制を整備している。「アセスメントツール」等で利用者の意向やニーズを把握し、PDCAサイクルに基づいたケアマネジメントにより、現状に即した個別支援に取り組んでいる。法人開発のアプリにより、個々の計画内容を「予定」として把握でき、計画に基づいた実施と記録が連動する仕組みが機能し、業務の標準化・効率化につなげている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己 評価	第三者 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所や詰め所などに理念と行動指針を掲示しており、職員が目にする機会を設けている。管理者がラウンド時に、スタッフと密にコミュニケーションを図り、理念の浸透を行っている。	「事業所理念」に地域密着型サービスとしての意義を明示している。「事業所理念」と「行動指針」を社内ウェブサイト内の共有ツールで共有し、管理者から具体的な取り組み等を発信し、個別面談時にも伝える等、実践に向け取り組んでいる。	「事業所理念」や「行動指針」についての実践状況等を、職員が参画して定期的に振り返る機会を設ける等、実践に向けた具体的な取り組みを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	トライやるウィークやこども食堂、オレンジカフェなど地域に向けた活動を行っている。カフェの実施を就労支援事業所とも連携して行っており、外部の方にも来て頂いている。	子ども食堂・オレンジカフェ・就労支援事業所によるカフェの開催(各月に1回)、ボランティア(ハーモニカ・ハンドベル等の演奏、手品等)の来訪等、利用者が地域交流できる機会を設けている。トライやるウィークの受け入れ・地域包括支援センター主催の100歳体操時の体力測定をサポート・認知症サポーター養成講座の講師活動等、地域貢献にも取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括との連携を図り、地域ケア会議や地域の体力測定をサポートを行うなど地域連携を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な開催は行えている。民生委員も参加頂いており、グループホームという場所の理解に努めている。	利用者・家族・地域代表(民生委員)・地域包括支援センター職員・知見者(他事業所管理者)・事業所管理者を構成委員とし、2ヶ月に1回集合開催している。会議では、資料・写真をもとに、利用者状況・職員状況・事故・研修・行事等について報告し、質疑応答、意見・情報交換を行い、議事録を作成している。	家族の参加が得られるよう、働きかけを継続することが望まれる。議事録ファイルを設置する等、議事録を公開することが望まれる。

そんぽの家GH神戸伊川谷

自己 第3	第3	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括の方と、定期的に情報交換を実施している。西区のグループホームの集まりにも定期的に参加し、情報交換を行っている。また、オレンジカフェを通して社協との連携も図っている。	運営推進会議に地域包括支援センターから参加があり連携している。区役所で開催し、区役所からも参加がある西区グループホーム協議会(年4回)に参加している。地域ケア会議への参加、100歳体操時の体力測定サポート等で、地域包括支援センターとの連携がある。認知症サポーター養成講座の講師活動、オレンジカフェの開催等を通して、社会福祉協議会と連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関する指針を定め一時性、非代替性、切迫性のないものについては、身体拘束を行わないようにしている。	身体拘束をしないケアを実践している。「虐待防止・身体拘束廃止のための指針」を整備し、各フロアのエレベーターホールに掲示し周知を図っている。「虐待防止・身体拘束廃止委員会」を3ヶ月に1回開催し、各ユニットの委員が参加している。委員会では、前回の振り返り、事例の有無の確認、各フロアの課題の把握、防止に向けた検討を行い、議事録を作成している。年間研修計画に沿って、「虐待防止・身体拘束廃止」の動画研修を年2回実施している。受講後は「研修振り返りシート」を提出し、管理者が確認しコメント記入等を行っている。ユニットの扉は施錠しているが、希望があれば職員が散歩に同行する等、閉塞感を感じないよう支援している。	委員会の議事録は、社内ウェブサイト内の共有ツール、または、議事録の閲覧で周知を図っているが、周知を確認できる工夫が望ましい。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修や委員会などで学ぶ機会を設けている。定期的に管理者が施設内を回り「不適切ケア」が発生していないか確認している。	虐待防止についても、上記と同様に、指針を整備し、委員会・研修を実施し、不適切ケアの未然防止に取り組んでいる。管理者が、各ユニットを1日3回ラウンドして職員とコミュニケーションを図り、月2回のカンファレンスや定期的・随時の個別面談等、課題について職員と共有し、相談対応する機会を持ち、職員のストレスや不安がケアに影響しないように取り組んでいる。	

そんぽの家GH神戸伊川谷

自己	第三者	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が研修で学んだりしており必要時に、スタッフへ伝えることを繰り返し行っている。	現在、成年後見制度の利用事例があり、管理者・計画作成担当者が中心となり、書類の提供・身体状況等の報告・面談や電話対応等、制度利用を支援している。管理者が権利擁護に関する制度について研修を受講しており、必要時に職員に説明している。今後も、制度利用の必要性や家族等からの相談があれば、管理者が相談対応や情報提供を行うこととしている。	権利擁護に関する制度（日常生活自立支援事業や成年後見制度）について、職員が学ぶ機会を定期的に設けることが望まれる。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご契約の前に、家族様、本人様に見学にお越し頂くようにしている。見学にお越し頂くことが難しい方については管理者が自宅へ向かい、写真や動画等で施設内の様子を伝えるようにしている。	入居希望があれば、見学対応し、見学が難し場合は管理者が自宅等を訪問し、パンフレットや説明資料に沿って、サービス内容・料金等を説明している。自宅等で説明する際は、ホーム便りや動画で、施設内の環境や様子を伝えている。契約時には、契約書・重要事項説明書・指針・各種同意書に沿って丁寧な説明に努め、文書で同意を得ている。料金（加算等）・医療連携・重度化終末期対応・退去要件等については特に詳細に説明している。契約内容の改定時は、書面で通知している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様・家族様から頂いた意見や要望は、管理者へ伝達するようスタッフへ周知している。	面会・電話・メールの際に、また、利用者担当職員が写真添付の個別のお便りを毎月郵送し、利用者の近況を家族に伝え、家族の意見・要望の把握に努めている。利用者の要望等は、日々のコミュニケーションの中で聞き取るようにしている。把握した利用者・家族の意見・要望は、ユニットリーダー・管理者に報告し、対応策を社内ウェブサイト内の共有ツールで関係職員に周知対応している。法人が家族満足度アンケートを実施している。運営推進会議に利用者の参加があり、職員・外部者に意見等を表す機会を設けている。	

そんぽの家GH神戸伊川谷

自己 第三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(10) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に管理者が職員と面談を行い困っていることや要望を聞く機会を設けている。職員から出た困りごとや要望はできることはすぐに実行に移し、職員にとって働きやすい職場になるよう努めている。	「計画作成ミーティング」を月2回、管理者・ユニットリーダーが参加して開催し、運営に関する協議を行っている。「ユニットカンファレンス」を月2回開催し、連絡・報告事項、利用者支援、事故事例、業務改善についての情報共有と検討を行い、議事録を作成している。議事録は、社内ウェブサイト内の共有ツールで共有を図っている。各種委員会を定期的、適宜に開催し、職員の意見を運営にも反映している。1日3回管理者が各ユニットをラウンドし、随時職員の意見の把握に努めている。定期的な個人面談(年2回)も行っている。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務時間内に業務を終わらせることのできるよう業務上の困りごとなどの解決を図るようにしている。また、計画作成担当者と協力して職場環境をより良くするための整備も行っている。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修を通して、知識や技術の向上に努めている。また、委員会活動などを通して職員自らが「考えて、動く」ことの推進を図っている。必要時には、管理者や計画作成担当者が知識や技術に関する教育やフォローを行っている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議や、西区グループホームの連絡会へ参加し、同業者との情報交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前に、管理者や計画作成担当者が本人様の元へ訪問し、困りごとや不安等の聞き取りを行っている。入居後も計画作成担当者や居室担当者を中心に全体で関わりを持つようにしている。		

そんぽの家GH神戸伊川谷

自己 第3者	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居前に、管理者や計画作成担当者が家族様がどのような要望があるのか聞き取りを行っている。入居後も様子報告をするなど密に連絡をとり安心して頂けるよう取り組んでいる。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご入居される経緯を、入居前に聞いている。何に困っているのか等を確認し本人様の能力を把握するために多職種との連携を行い、適切なサービス提供に努めている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	社会的役割の構築を行い、暮らしを共にする者同士の関係性を築けるようにいる。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に入居者様の状況を家族様へ報告し、関係継続を図っている。また、家族様が来訪し、お会いできるように予約など不要で「いつでも」会って頂けること家族様へ周知している。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活歴を聞き、入居後も障害を持つ前の生活ができるよう努めている。家族様との繋がりを大切にし、家族以外にも友人などの面会も可能なことを、家族様へ周知している。	馴染みの人や場所について情報があれば、「アセスメントツール」の「生活歴・参加等」項目に記録し共有している。家族・友人・知人との面会に対応し、希望の場所でゆっくり面会できるよう配慮し、馴染みの人との関係継続を支援している。家族との外出を支援し、また、事業所の外出行事や個別外出でも馴染みの場所に出かけられるよう支援している。	

そんぽの家GH神戸伊川谷

自己 第3	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性を、普段の生活の中から観察し、把握するよう努めている。また、必要に応じてテーブルの配置変更等ユニット内の環境を整備し、孤立せずに生活ができるよう努めている。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、必要時には相談やフォローができることを家族様へお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	聞き取りが可能な方は、直接聞き取りを行いどのような思いをお持ちなのか把握するよう努めている。聞き取りが難しい方には生活歴を元に家族様へ聞き取りを行い本人様の思いを把握するよう努めている。	入居前面談や家族記入のシート等から把握した情報を、「アセスメントツール」の「生活歴・参加等」項目等に記録し、利用者個々の思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。入居後新しく把握した情報は、社内ウェブサイト内の「個別スレッド」で共有し、必要に応じて「アセスメントツール」更新時に追記している。把握が困難な場合は、「アセスメントツール」の情報や家族からの聞き取りをもとに、意向に沿った支援ができるよう取り組んでいる。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様のこれまでの生活について本人様や家族様、聞ける方は近親者など身近な方からも聞き取りを行い把握するよう努めている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人様の要望や、心身状況を鑑みて1日のスケジュールを組む様にしている。		

そんぽの家GH神戸伊川谷

自己 者	第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成の際は、本人様と家族様の要望や主治医、薬剤師など多岐にわたる方々から意見を頂き、反映するようにしている。	「アセスメントツール」をもとに、担当者会議を開催し、初回の「施設サービス計画」を作成している。初回は2～3ヶ月後に、それ以降は、必要時は随時、定期的には短期目標の期間に合わせて、見直しを行っている。見直しの際は、「アセスメントツール」で再アセスメントを、「モニタリング表」でモニタリング・評価を行っている。往診に合せて担当者会議を開催し、事前聴き取り・照会も含め、利用者・家族の意向、主治医・薬局・リハビリ専門職等関係者の意見を反映し検討している。計画内容がアプリの「個人介護記録」の「予定」として連動され、計画内容の把握と実施の記録ができるシステムがある。計画通りに実施できなかった事項や特記事項は、別途、文字入力で記録している。	利用者・家族の意向、関係者の意見を、担当者会議の議事録に記録することが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に、本人様の状況や変化など詳細に残し、カンファレンスで情報共有や検討を行っている。その内容を、ケアプランに反映するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様へは普段の生活の中で、家族様は来訪時や必要時には連絡をさせて頂きニーズの確認を行い、施設だけでなくボランティアなどの社会資源なども視野に入れた提案を行うなどしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	就労支援事業所との連携やトライやるウィークなどの協力をし地域との繋がりを感じながら生活ができるように支援している。		

そんぽの家GH神戸伊川谷

自己 第3	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医との連携を図り、密に連絡をとることで関係性を築き上げていけるよう努めている。また、往診の予定を家族様へ報告し、往診後はその内容を家族様へ報告するよう努めている。	契約時に事業所の医療連携体制を説明し、利用者・家族の意向を確認し、意向に沿った受診を支援している。提携医療機関から定期的な内科・外科・循環器科の訪問診療、訪問歯科、必要に応じて皮膚科・耳鼻科の往診を受けられる体制がある。他科については外部受診となり、家族の同行を基本とし、状況に応じて事業所職員が同行している。受診結果は、アプリ内の「個人介護記録」、介護支援専門員の「支援経過記録」に記録し共有を図っている。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の中で起きた変化や、状況を看護師が出勤した際は共有し必要に応じて主治医と連携をとりながら対応している。		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、毎週末に状況確認を入院先や家族様に対して行っている。面会が可能な病院についてはお見舞いに行き、本人様の状況把握に努め。早期退院に向けて動いている。	入院時は、主に管理者が同行し、「介護サマリー」や医療機関書類で情報提供している。入院中は、毎週末に家族や地域医療連携室に電話で状況確認を行い、可能な場合は面会して本人の状況を確認し、早期退院に向けて連携している。退院前には病院を訪問して面会し、地域医療連携室等から状況説明を受け、退院時には「看護サマリー」を受領し、退院後の支援に活かしている。入院中の経過は、「個人介護記録」、社内ウェブサイト内の「個別スレッド」に記録し共有している。	

そんぽの家GH神戸伊川谷

自己	第三者	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に終末期についての説明を行い、その後も定期的に、入居者様や家族様へ意向を伺うようにしている。また、急変時にも随時確認を行うようにしている。	契約時に「重度化した場合における対応及び看取りに関する指針」を利用者・家族に説明し、同意を得ている。「医療に対する希望・意志確認票」で意向を確認し、年に1回更新している。重度化を迎えた段階で、主治医から家族に状況を説明し、家族の意向を確認している。看取り介護の希望があれば、看取りに向けた「施設サービス計画」を作成し、主治医・家族・事業所・訪問看護・薬局で連携し支援に取り組んでいる。経過は、「個人介護記録」、社内ウェブサイト内の「個別スレッド」に記録し共有している。年間研修計画をもとに、看取り介護に関するオンライン研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル化したものを各階に掲示し社内研修などでも周知し、学ぶ機会を設けている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	立地条件などから起こり得る災害の予測を行い、その災害毎に避難対策を立てている。	令和7年度は、6月に夜間想定、12月に昼間想定で、自衛消防訓練(消火器・消火栓・誘導方法確認等)を実施している。訓練の実施記録は、社内ウェブサイト内の共有ツールで共有している。BCP(事業継続計画)訓練(備蓄品確認・非常食試食等)とBCPに関する動画研修(5月)も行っている。	消防訓練については、可能な利用者も参加し、実践的な訓練の実施が望まれる。また、運営推進会議等を活用し、地域との協力体制を築くことが望まれる。

そんぽの家GH神戸伊川谷

自己 者第三	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様はお客様として敬い、居室も入居者様の「家」として対応するようにしている。居室に入る際のノックを徹底して行い、プライバシーの侵害が無いように努めている。	人格・誇りやプライバシーを尊重した対応について、「接遇マナー」「認知症ケア」「虐待防止・身体拘束廃止」等のオンライン研修で学ぶ機会を設けている。「身体拘束・虐待防止委員会」でも、定期的に振り返りを行っている。管理者が毎日各ユニットをラウンドし、気にかかる対応等があれば、社内ウェブサイト内の共有ツールで注意喚起を発信している。利用者の写真や映像使用に関して「肖像使用同意書」で意向を確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、選択が必要となった場合入居者様に選んで頂けるように努めている。ケアプランに関しても、本人様へ必ず提示を行うようにしている。要望の聞き取りが難しい方に関しては、家族様へ確認をとり、反映するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々に合わせた生活の流れを考えスケジュールリングして、できる限り実現できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の好きな物や、拘りについて把握を行うようにし、日々の生活に取り入れている。また、馴染みのある物を持って来て頂き状況に合わせて身に着けて頂くようにしている。		

そんぽの家GH神戸伊川谷

自己	者	第三	項 目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好みの把握を行っている。また、残存能力に合わせた食事形態の提供を行い、食べることの楽しみをできる限り継続できるよう努めている。	各ユニットで炊飯・汁物調理を行い、系列会社から届く食事を温め、盛り付けて提供している。利用者個々の状況に応じて、ソフト食・ピューレ食にも対応している。献立に季節食や行事食、ご当地メニュー等の工夫があり、各フロアで食事レクリエーションやおやつレクリエーションを行い、利用者が食事を楽しめる機会作りを行っている。可能な利用者は、食器洗いやテーブル・トレイ拭き等に参加できるよう支援している。希望に応じて、外食の個別支援、家族との外食支援を行っている。	
41			○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	提携の給食業者の栄養士が栄養状態の管理をしている。1日1,600kcal程度の接種ができる食事内容となっており好みやアレルギーなどに合わせて代用食の提供も行っている。		
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要な方に対しては、援助を行うようにしている。誤嚥性肺炎を起こす可能性のある方は毎食前後や就寝前に職員が口腔ケアの対応を行っている。口腔内に異常が見られた際は歯科医へ連絡し定期的に歯科衛生士より口腔ケアに関する指導を受けている。		
43		(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁を引き起こしている原因を分析し必要に合わせて専門医の受診、環境の整備を行い自立に向けた支援を行っている。また、自立では難しい方に関してはアセスメントに基づいた定時誘導を施行し失禁をなくせるように努めている。	利用者個々の排泄パターンを把握し、「個人介護記録」に「予定」として入力し、利用者個々に応じた排泄支援を行い、トイレでの排泄・排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。実施状況を「個人介護記録」に記録している。「予定」と実施状況の相違や失禁等、課題や検討事項がある場合は、「排泄表」で排泄状況を確認して分析し、必要に応じて専門医にも相談し、課題解決・現状に即した個別支援に取り組んでいる。	

そんぽの家GH神戸伊川谷

自己	者	第三	項 目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44			○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の身体状況を把握し、便秘の種類を特定。それぞれの便秘の種類に対して自然食品を取り入れている。季節の変化などに対しての機微に対応を行い主治医の協力の下、緩下剤の調整を行っている。		
45	(21)		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	定期的な入浴に関しては、個々の希望を伺い、希望に沿う形で対応をしている。また、それ以外の入浴に関しては、個々で要望を伺い、入浴剤の使用など楽しみとして感じていただけるように努めている。	週2回の入浴を基本とし、「個人介護記録」に「予定」として入力している。当日の体調や気分等に応じて柔軟に対応し、実施状況を「個人介護記録」に記録している。各ユニットに一般浴槽があり、2階には機械浴の設備もあり、必要に応じて、他のユニットの利用者も機械浴を利用している。一人ずつ湯を入れ替え、個々のペースでゆっくり入浴できるよう支援している。疾患等で浴槽での入浴が困難な場合や、利用者の希望により、シャワー浴でも対応している。同性介助の希望があれば同性で対応し、入浴拒否がある場合は個別の配慮で対応し、入浴機会が確保できるよう努めている。入浴剤を使用し、入浴がより楽しめるよう工夫している。	
46			○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	服薬の目的、副作用、用法、用量については各スタッフが把握できるように努めている。新しい薬が処方されたときは副作用を調べ、注意して観察を行い変化が見られればすぐに主治医へ報告をするようにしている。		
47			○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の目的、副作用、用法、用量については各スタッフが把握できるように努めている。新しい薬が処方されたときは副作用を調べ、注意して観察を行い変化が見られればすぐに主治医へ報告をするようにしている。		

そんぽの家GH神戸伊川谷

自己 者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の拘りや楽しみについて把握を行い日常生活に取り入れられるようにしている。役割の重要性を職員が理解し支援するように努めている。	
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出については、行き先や頻度の希望を聞き取り、支援している。施設職員だけでなく、ご家族様やボランティアの協力を仰ぎ支援している。また、週間スケジュールを組んで、近隣に散歩へ行く機会を設けるなど、外気に触れて頂くことに努めている。	今後も、日常的な外出、季節の外出、外出行事、個別の希望外出等、外出支援に取り組まれることを期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	アセスメントに則り、自身で管理が可能な方については金銭のお持ち込みが出来る環境づくりをしている。ご自身で管理することが難しい方についてはご家族様へ全面的に依頼している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご入居者様の要望を聞き取りながら対応をするようにしている。中には携帯電話を持ち、ご家族様やご友人と直接連絡を取られている方もいる。手紙に関しては、ご本人様へ伺い、お礼の連絡などを行うようにしている。	
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は室温、湿度などにも留意するようにしている。換気なども定期的に行い臭いについても配慮をしている。トイレや居室などにもわかりやすい目印を付けるようにし、不必要な混乱を招かない様に努めている。	各フロアの共用空間は広く開放感があり、テーブル席・ソファ等がゆったりと配置され、思い思いに過ごせる環境である。落ち着いた木調で、窓からの採光で明るく、整理整頓されて清潔感があり、温湿度管理・換気等により快適な生活環境づくりに配慮している。各階のエレベーターホールとフロア内に、利用者と一緒に制作した季節の飾り付けを行い、季節感が感じられ、明るく楽しい雰囲気づくりを行っている。キッチンを併設し、利用者が食器洗い・テーブル拭き・掃除・洗濯物たたみ等に参加できるよう支援し、生活感を取り入れている。

そんぽの家GH神戸伊川谷

自己	者	第三	項 目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを見る方、音楽を聴く方など、個々に合わせた生活が送れるようにソファやテーブルの設置をしている。個々に要望の聞き取りを行い、思い思いの過ごし方をして頂けるように努めている。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居されるときに思い出のある家具や写真、仏壇など、ご自宅に有ったものをお持ちいただけるようにご家族様へ依頼。ご入居者様、ご家族様と相談をしながら居室環境を整えていくように努めている。	各居室に、ベッド・洗面台等が設置されている。筆筒・テーブル・椅子・テレビ・寝具等使い慣れた物、仏壇・位牌・家族の写真・自身の作品等大切にしている物が持ち込まれ、その人らしさが感じられる。利用者の意向や動線に合わせて家具の向きや位置を調整し、状況の変化に応じて変更しながら、安全に自立した暮らしが継続できるよう支援している。居室担当職員が、家族と連絡をとりながら、衣替えや環境整備を支援している。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力に合わせた標識や目印などを配置し、動線の確保や滑りにくく、転倒しても衝撃を吸収してくれる素材の床など自立した生活が送れるように努めている。		